

# 第6回定期発表会

## 山形南高OB合唱団

### 発足10周年記念

指揮 佐々木基之

#### ——ひとこと——

山形南高のOB合唱団が十周年を迎える、東京でまた音楽会をやることになったのはうれしい。

このコーラスは、東京でよく見る高度な技術をひけらかし、乙にとりすました団体などとちがつて、聴衆との間に冷たい空気のカーテンがないのがいい。

いつか、やはり上京されたとき聞いた感じでは、やさしい曲を美しくたのしくうたつていたのが印象に残っているが、ひびきのきれいなことが、ひとときわ注目されたものだ。

それはきっと佐々木基之先生が、指導の折にとりわけやかましく云われたのであろう。

近頃は、わが国でも、コーラスばかりで、どこの学校でも、どんな職場でも、実によく合唱をやつているが、中にはコンクール目あてのものや、妙にプロ気どりのものなどあつて、あまり感心しないものもある。かと思うと一方では逆に、美しさに無頓着で、やたらとがなり立てているようなひどいものもある。

どちらも好ましくないのはいうまでもない。素人のコーラスの本当のよさは、むづかしい曲や大がかりな曲をむりさしてやるより、自分たちに適ったやさしい曲を、美しくうたい、自分たちもたのしみ、きくものにも喜びをあたえる事だと思う。

ヨーロッパの人たち、殊にドイツやオーストリアの人たちはコーラスが大好きだ。休みの日には、仲間同志で山や野に出かけ、誰もが知っているような親しみある曲を、次々とたのしそうにうたい、あたりにいる人たちからよく喝采を浴びている。

山形南高のOBのコーラスも、どこかそんなところがあるようにおもうのだが、どうだろうか。

こんどの記念演奏会も、特に肩の張った大曲を並べず、いつものように親しみやすい曲ばかりでプロが組まれ、美しくたのしくうたつてくれるようなので、大いに期待している。

宮沢 縱一

1961.11.11(土) P.m. 6.30

於 山形市中央公民館

主催 山形南高等学校同窓会  
後援 山形南高等学校